

<男女雇用機会均等法が成立して30年が経ちました>

# データで見る働く女性の変化

～昭和60年(均等法成立)と現在の働く女性の変化～

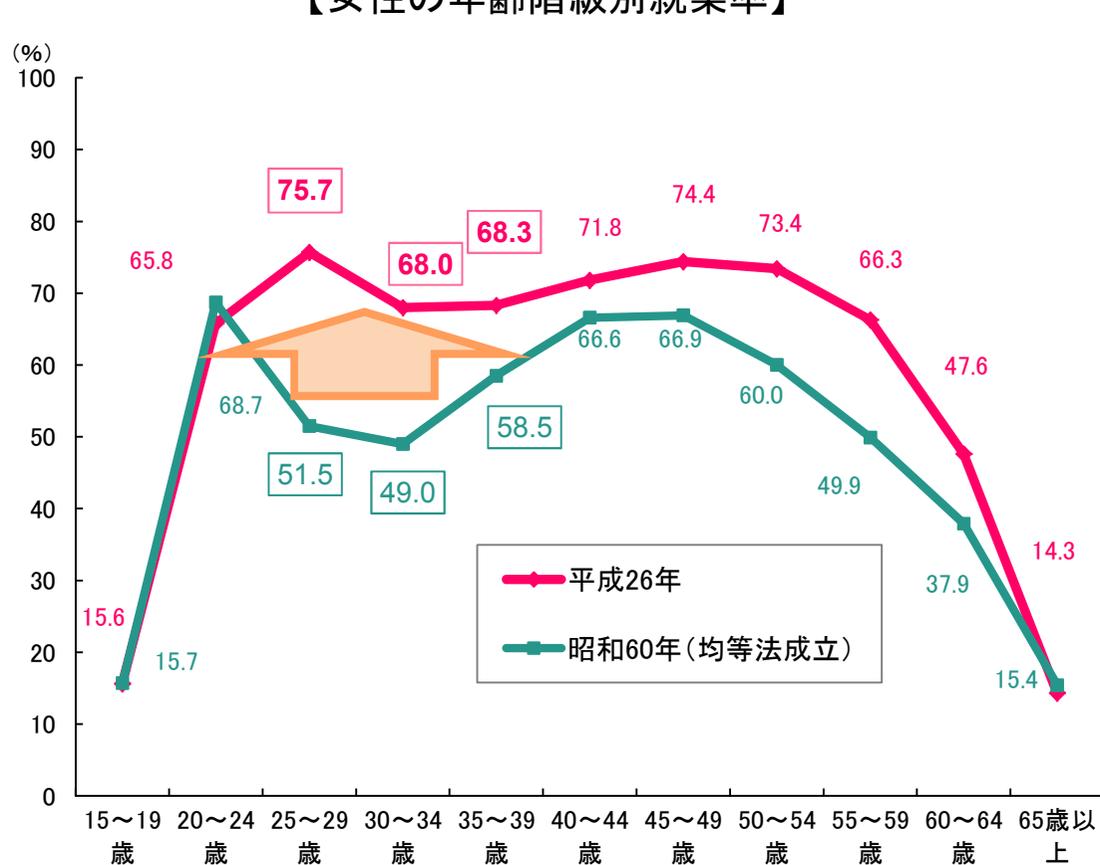
# 女性雇用者数の推移、M字カーブの変化

- 平成26年の女性雇用者数は2,436万人となり、均等法が成立した昭和60年の1,548万人の約1.57倍となっている。また、雇用者総数に占める女性の割合についても、昭和60年では35.9%だったが、平成26年では43.5%となっている。
- 昭和60年のM字カーブの底の値は49.0%であったのに対し、平成26年の底の値は68.0%となり、底の凹みは上昇し、M字型から緩やかな形状になっている。

【雇用者数の推移】



【女性の年齢階級別就業率】

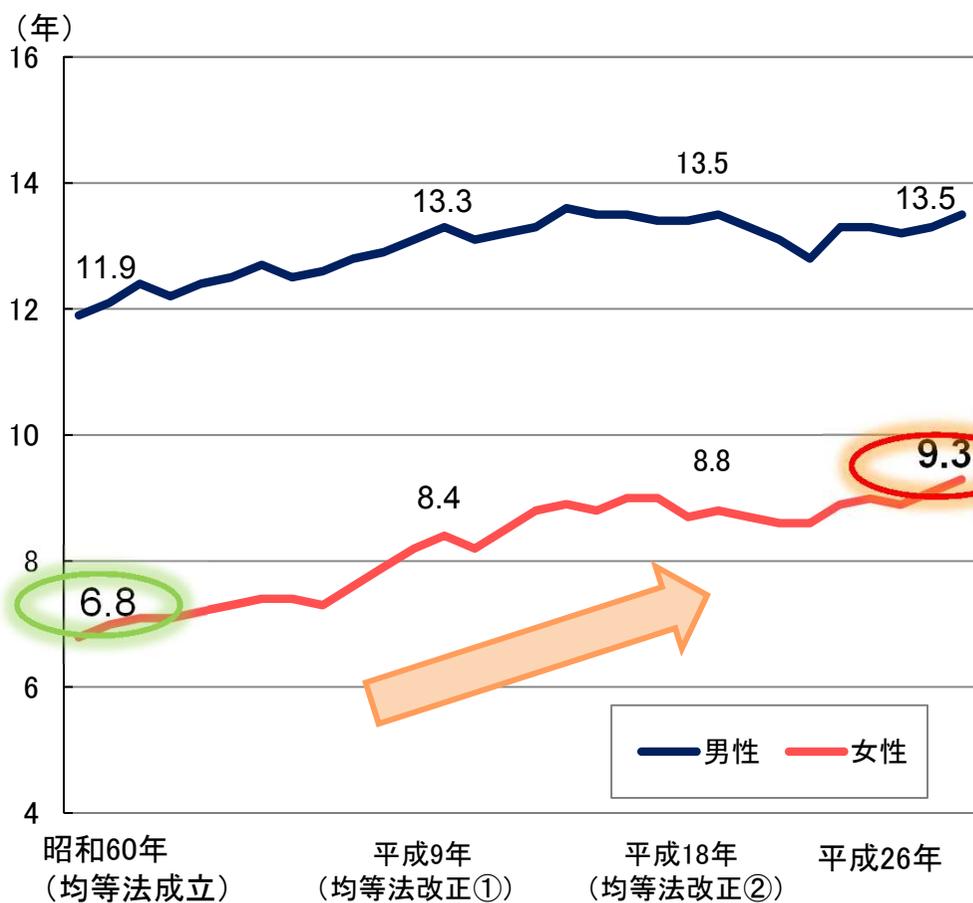


\*平成23年統計については、平成17年国勢調査結果を基準(旧基準)とする推計人口をベンチマークとして、東日本大震災の影響により3月から8月までを補完推計した参考値によって求めた値である。  
注)平成23年の数値(斜体)は、同補完推計値について平成22年国勢調査結果を基準とする推計人口で遡及推計した値。

# 女性の平均勤続年数、管理職に占める割合

- 昭和60年当時の女性の平均勤続年数は6.8年だったが、平成26年は9.3年となっている。
- 昭和60年の管理職(課長級以上)に占める女性割合は1.4%であったが、平成26年は8.3%に上昇している。

【一般労働者の平均勤続年数の推移】



【役職別管理職に占める女性割合の推移(企業規模100人以上)】

